



菓子と歩む
ひとときの時間旅行へ



平安の世
歴史に
残る菓子

京菓子資料館

〒602-0021 京都市上京区烏丸通上立売上る柳図子町331-2
電話：(075)4323101(俵屋吉富烏丸店) FAX：(075)4323102
※京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、北徒歩5分(西側)
URL：http://www.kyogashi.co.jp

写真上：徳川本源氏物語絵巻(複製より)「宿木」
(一般財団法人ギルドハウス京菓子蔵)
写真中：再現菓子「粉熟」(右)「椿餅」(左)
写真右下：工芸菓子作製用木型・金型
(京菓子司 俵屋吉富所有)

●呈茶料ご優待●
800円～700円
本紙1枚につき5名様まで

有効期限：令和5年9月23日から12月19日まで

京菓子資料館 企画展

お菓子が 目にした時代



令和5年

9月23日(土) — 12月19日(火)

- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時まで)
※呈茶席のラストオーダーは午後4時までとさせていただきます
- ◆休館日 毎週水曜日・木曜日
- ◆入館料 税込800円(呈茶料を含む)
- ◆主催 一般財団法人ギルドハウス京菓子
- ◆後援 京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会・京博連
- ◆協力 京菓子司 俵屋吉富

わたしたちが日ごろ目にし、口にする多種多様な菓子には、それぞれに歴史的背景があります。菓子の起源とも言われる果物や、日本古来より存在していた餅、外来の食文化の影響を受け作られた唐菓子や点心、南蛮菓子。そして、砂糖の流通量の増加や茶の湯と共に発展を遂げた、四季の風物を表現した雅な上菓子など……。それらの菓子は、いつ何処で、どのような空間で、誰により食され楽しまれたのでしょうか。今回は趣向を変え、さまざまな時代の菓子が目にした光景を、おもに茶の湯の世界を中心に、「茶会記」や茶室模型、再現菓子などとともに、一部エピソードを交えながらご覧いただきます。「利休百会記」の最後、千利休と徳川家康の一客一亭の茶会や、海を渡った茶室で行われた茶会はどのような様子だったのでしょうか。

※掲載写真はイメージであり実際の展示物とは異なる場合がございます。また、会期中展示替えがございます。

江戸期に
花開く
菓子意匠



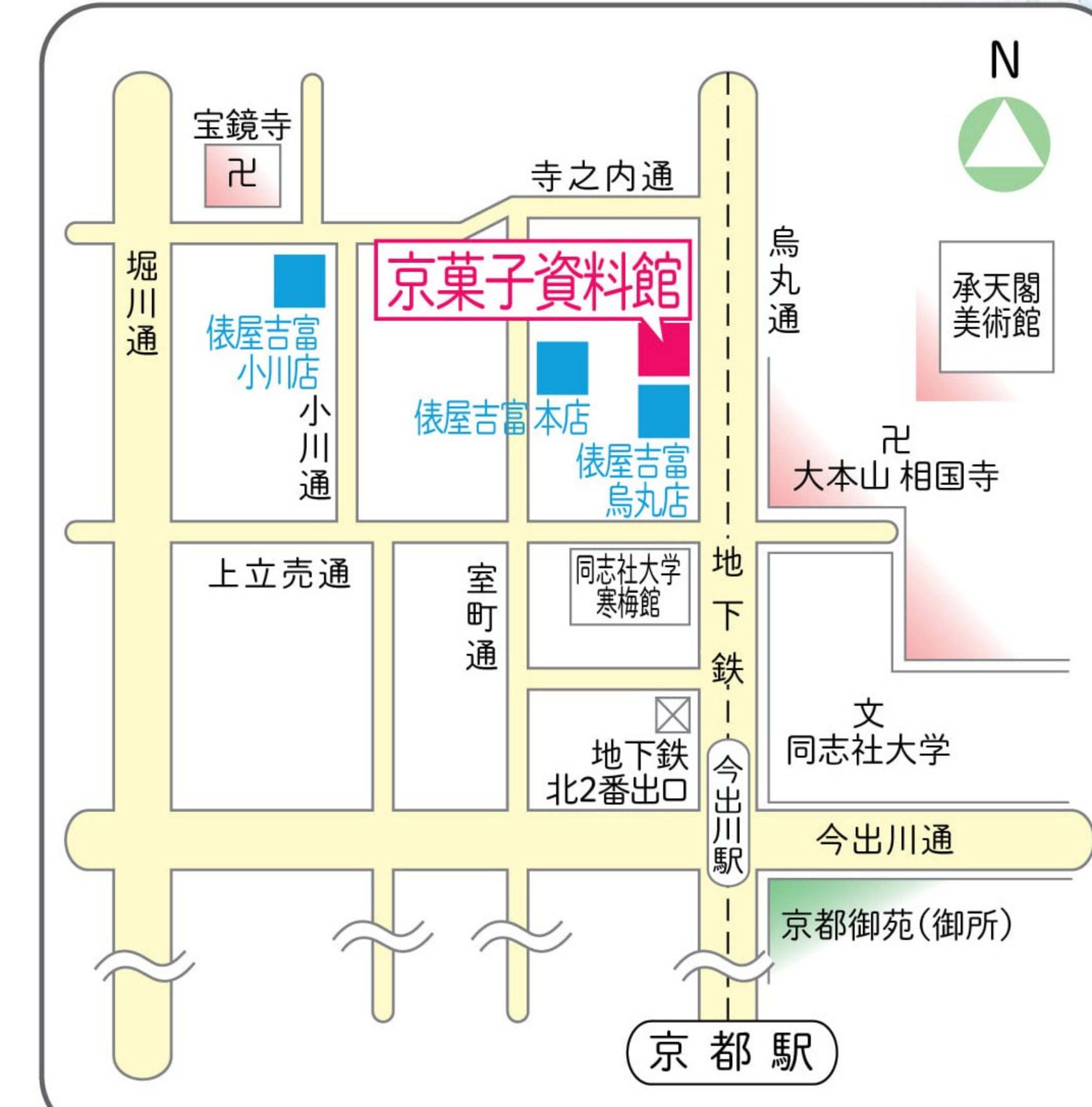
移ろう自然、
受け継がれ
ゆく茶室の姿



海を
渡った
寸暇楽庵

- 写真上より
- ・澤屋播磨伝来「御蒸菓子絵本」より「いせ桜」/再現菓子「いせ桜」
 - ・『古今名物御前菓子図式』より「伊勢櫻」/再現菓子「伊勢櫻」
 - ・関山隆志氏作 茶室模型「寸暇楽庵(部分)」(左) / 「草庵茶室」と工芸菓子「夏景色」(右)

【会場までのアクセス】



※地下鉄「今出川」駅 北2番出口より、烏丸通を北へ徒歩5分(西側)
※専用駐車場はございませんので公共の交通機関をご利用のうえ
ご来館くださいませ。

